毎日新聞　（第3種郵便物認可）

現場から 24衆院選 3

外国人材の流出懸念

27年新制度 転籍・転職容易に

雪体験 道内定着に一役？

■給料・生活で厚遇

稚内市の水産加工会社「中央水産」の工場で7日午後、約20人の女性従業員がおせち料理を詰める器などに使うホタテの貝殻を水とブラシで洗っていた。従業員の多くは技能実習生として来日した若い外国人。ベトナム・ハノイ出身のクアック・ティ・ズオンさん(20)は「稚内は寒いが、お金や生活には満足しています」と話した。

同社が実習生を採用し始めたのは約20年前。現在は工場で働く36人のうち21人が外国人だ。コロナ禍で採用がストップしたものの2年前に再開。中陳大樹(なかじんひろき)社長(45)は「やっと今春、人手不足が解消した」とほっとした表情を見せる。

待遇には気を使う。給料体系は日本人と同じ。社員寮を安い家賃で提供しお金がたくさん手元に残るようにしている。成人を迎える実習生には晴れ着を用意することもある。

寒さや最低賃金の低さなどハンデのある北海道の中で、最北に位置する稚内に来て働いてもらうための経費は日本人より高い。だが、中陳社長は「工場を動かさないと利益は出ない。日本人が来ないなら、外国人に気持ち良く働いてもらうほかない」と語る。

■実習生2割 道外へ

生産年齢人口（15～64歳）が30年近く減り続ける中、道内で働く外国人は2023年に3万人を超えた。地方では外国人に頼る職場も多い。ただ、道内で働き続けてもらうことは容易ではない。

道の22年度調査では、一定期間働き、職場の転籍が可能となった実習生の約2割は、賃金の低さや交通の不便さ、寒さなどを理由に道外に移った。外国人の受け入れを担当する道国際課の山田浩嗣主幹は「地方より札幌、道内より道外へという流れは確かにある」と認める。

国は技能実習制度に代わる「育成就労」制度を27年までに始める。転籍や転職がより簡単になり、都市部への人材流出が懸念される。道関係者は「観光地としてはいいけど働く場所としては……ね」と実習生の心中を推し量る。

道は今夏、新制度を見越し、ベトナム政府と人材誘致に関する覚書をかわしたが、他の自治体も同じ動きを見せる。道東地方で外国人を受け入れている監理団体の男性は「外国人は来日するため本国の送り出し組織に借金をしている例もあり、賃金の高い地域に人が流れる原因になっていると思う。地方が人を集めにくくならないよう、国には外国人が少ない負担で働きにこられる仕組みを考えてほしい」と訴える。3年後に向けた争奪戦はもう始まっている。

道内では近年、赤道直下のインドネシアから来日して働く人が増えている。2023年10月現在で、4627人と前年同期比で2・2倍となっている。在札幌インドネシア名誉領事館の通訳で、札幌市で外国人材の紹介業を営むルビス・アフマド・ヒダヤットさん(52)は、道内定着に雪対策の重要性を挙げる。提案するのは雪合戦。「会社や町ぐるみで行うなど雪を好きになる体験ができれば、交流にもなる」と指摘する。

宗教への対応も大切だ。イスラム教徒の多い同国は礼拝の習慣があるが、地方にモスク(礼拝所)は少ない。ルビスさんは「毎週短時間、公民館などを借りて礼拝できる場所があればうれしい」と話す。

水産加工会社で働くベトナム人の従業員ら（7日、稚内市で）＝原中直樹撮影

※道や北海道労働局のまとめから。外国人労働者数は各年10月末時点

インドネシア人に北海道を選んでもらうには？
- 地方にも礼拝する場所がほしい
- 雪や寒さに慣れる機会がほしい
- 雑巾を絞る文化がない。絞れなくても大目に見て
- 定着のため、日本文化を教えてほしい
- 冗談でも頭をたたかないで。トラブルのもと

（ルビスさんの指摘）